

2024年も残りわずかとなりました。本格的な少子化時代を迎え、各学科「選ばれる大学」を目指して魅力創造にまい進した一年でした。過ぎ行く年を各学科、事務部門のトップに振り返ってもらいました。(NL編集部)

2024年を振り返る

今後の方向性明らかに

竹屋 元裕 学長

少子化と高齢化を迎えて、入学者確保対策と高齢化社会を見据えた医療人教育改革という入り口と出口の二つの側面から、様々な分析を行った一年であった。入り口に関しては、入試制度改革や小中高生を対象とした様々なイベントの開催、出口については、高度医療人育成の一環として認定看護師課程の脳卒中看護と認知症看護の同時開講、次年度からの公衆衛生看護学専攻科の認可決定など、今後の方向性が明らかになってきた。来年は教職員一丸となり、さらなる発展を目指したい。

カリキュラム変更を申請

上仲 一義 医学検査学科長

医学検査学科では、より魅力のある学科とするための施策に取り組んでいます。その一つとして、学生の就職先の多様化に合わせてカリキュラムの変更を準備しています。具体的には、国家資格を必要としない学生のためのカリキュラムを提供するというものです。これについては、令和7年度入学の学生より対応できるように、今年、関係当局にこの変更を申請いたしました。本件に限らず、今後も魅力ある学科に向けた改革を継続していきたいと思えます。

時代の要請に応え魅力創造

新たな専攻科の設置認可

多久島 寛孝 看護学科長

今年度は新型コロナウイルスの大きな影響を受けることなく授業（講義・演習・実習）が滞りなく進みました。学内の雰囲気も、コロナ禍以前のような学内の状況に戻りつつあることを実感しました。また、保健師養成の学部教育の最終年を迎えました。公衆衛生看護学専攻科が設置認可を受け、2025年4月からの開講の準備が進んでいます。時代や社会の要請に応じて、看護学科も形を変えて、新たな一歩を踏み出そうとしています。

挑戦・調和・眺望・跳躍

河瀬 晴夫 事務局長

スタバの楽しみ方の一つは「カスタマイズ」。原作の良さを引き出しながら、自分好みの味を創り出す。第Ⅱ期中期計画が進行している本学の取り組みにおいても、その場の状況に合わせて皆で計画をカスタマイズしていくのも大切です。激動する世の中、固定観念だけで動いてしまうとあっという間に時代に取り残されてしまいます。「挑戦・調和・眺望・跳躍」をキーワードに、事務局全体で前進し続けることのできた1年だったと思えます。

好結果残した国家試験

田中 聡リハビリテーション学科長

昨年度の卒業生の話となりますが、今年の3月にあった国家試験の合格発表は、大変喜ばしい結果となりました。PT専攻は前年度に続き全員合格、ST専攻も全員合格をついに果たし、OT専攻は1人が残念な結果となりましたが、それ以外は、入学した同級生が留年や退学で1人も欠けることなく合格することができました。学生本人の頑張りはもちろん、保護者の方々のご支援も大きかったと思えます。今年度も、良い結果を続けていきたいと思っています。



過去最多1461人が来学した8月のオープンキャンパス。ピア・サポーターによる相談コーナーにも多くの高校生がやってきました

命がけで奮闘 苦悩の医療人たち

在日大使館のザモルスカさん **ロシアの病院施設攻撃「非人道的」**

戦時下のウクライナ国内の医療体制などについて語るザモルスカさん



200人近い学生や教職員が聴講した学術講演会の会場

令和6年度の第4回学術講演会が12日（木）、50周年記念館であり、在日ウクライナ大使館の二等書記官ユリヤ・ザモルスカさんが200人近い学生、教職員を前に、ロシア軍の侵攻を受けた同国内の状況や医療体制について講演しました。

ウクライナは旧ソビエト連邦が崩壊した1991年に独立。領土や国境も国際的に認められていました。しかし、2014年にロシアが南部クリミア半島を一方的に併合。さらに2022年2月には東部からウクライナ本土への侵攻を始め、現在まで各地で激しい戦闘が続いています。

「ウクライナからのメッセージ」と題した講演で、ザモルスカさんは、旧ソ連時代から続いていた非効率な医療体制の改革が、クリミア併合から続く戦時体制下でも進んだことを紹介。本格的なロシア軍の侵略が始まった後、医療ネットワークの維持や再構築に命がけて取り組む医療関係者の努力や苦悩について語りました。

ザモルスカさんによると、ロシア軍は医療施設や医療従事者を集中的に攻撃しており、2022年の侵攻開始以来、医療施設への攻撃は2000回を超えるといいます。最近では、一度攻撃した後、救助活動に入った人々を狙って再度攻撃を加えるという非人道的な二重攻撃も頻発しており、「医療従事者の死傷リスクは普通の人の3倍に上る」ということです。

講演の後半でザモルスカさんは、いまだロシアの占領下にあるマリウポリの惨状や、破壊された医療施設の状況などを写真で紹介。惨状を伝えながら声を詰まらせる場面もありました。また、日本からの寄付や人的支援、さらに日本国内で暮らす約2000人の避難者に対する配慮等を挙げながら感謝の言葉を口にしました。

ザモルスカさんは、富山大学に留学経験があり、在日大使館勤務も2度目となります。講演も流ちょうな日本語で行いました。（NL編集部）

防火訓練…備えあれば憂いなし 自衛消防組織の30人参加

年末恒例の防災訓練が13日（金）に実施され、自衛消防組織の初期消火班・地区隊消火係を担当している教職員約30人が参加しました。今年は、「初期消火」に重点を置き、出火時に消火担当者が迷わず行動出来るように、実践的な訓練となりました。

参加者は、1500M講義室で訓練講習を聴いた後、被災想定のもとに2号館3階のコミュニティスペースで消火訓練、2号館1階警備員室前で放水訓練を行いました。訓練には、能美防災株式会社のスタッフも参加。消火器や消火栓、防火戸などの取り扱いについての指導を行いました。

消火部隊にスポットを当てた訓練は初の試みでした。訓練後の反省会では、「実際に道具を使ってみると、思った以上に扱いにコツがあることを痛感した」や「頭だけではなく、体を通して学ぶことのできた非常に有意義な時間だった」という声が聞かれました。（NL編集部）



練習用の消火器を用いて消火訓練を行う参加者

「想像超えた未来創造」に向け結集

地方大会最多3800人超 熱心に討論

第44回日本看護科学学会学術集会を2024年12月7日（土）・8日（日）に、熊本城ホールと市民会館シアーズホーム夢ホールで開催しました。地球上のいたるところで、温暖化に伴う異常気象、自然災害、紛争により経済的格差が生じ、健康格差、教育格差など、様々な格差が生じていることから、学術集会のテーマを「格差社会への看護科学の挑戦～想像を超えた未来を創造する～」としました。

特別講演は認定NPO法人ロシナンテス代表・川原尚行先生に「究極の医療は戦争をしないこと、させないこと～スーダン内戦を経験して～」というテーマでご講演をいただきました。教育講演、シンポジウムに加え、会員から344題の口演、735題のポスター発表と74題の交流集会が行われました。COVID-19感染拡大が落ちついたこともあり、これまでの地方大会で最高の3800人を超える参加者があり、2日間にわたり熱心な討論が行われました。

学術集会開催に当たっては本学の理事長、学長はじめ多くの教職員・学生の皆さまに企画・運営等にご協力・ご支援いただきましたことを心から感謝し、深くお礼申し上げます。



第44回日本看護科学学会学術集会の大会会長を務め、あいさつに立つ筆者

銀杏アラカルト

■ 年内最後の選抜試験

助産別科一般入試および公衆衛生看護学専攻科推薦選抜を7日（土）、実施しました。今年を締めくくる最後の入試となります。公衆衛生看護学専攻科は来年4月に開設を控えており、今回が初めての選抜試験となりました。冬らしい寒さでしたが、体調不良を訴える受験者はおらず、滞りなく終了いたしました。合格者は13日（金）に発表しました。（入試・広報課）

■ 岱志高生徒が来学 岱志高校（荒尾市）の生徒8人と引率教諭2人が13日（金）、本学を訪れました。一行を前に古閑陽一特命副学長があいさつし、入試・広報課職員が大学の概要説明を行いました。その後、一行はアリーナにある各種機器に触れながら健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁副センター長と在学生2人による模擬授業を受講。生徒たちは、体の動きを運動学的、生理学的に捉える動作解析の機器を活用しな

がら、目を輝かせて体位や体力測定に挑戦していました。（入試・広報課）



インフォメーション

週間行事予定（12月24日～1月13日）

12/24（火）	こころとからだの健康づくり研修会
12/25（水）	年内授業最終日
12/26（木）	仕事納め式
1/6（月）	仕事始め式
1/8（水）	理学療法学専攻2・3年生対象「キャリア講演会」
1/11（土）	認定看護師教育課程特定行為研修課程入試、公衆衛生看護学専攻科一般入試

※次号（269号）は来年1月14日（火）に配信します。